

AERRC News Letter

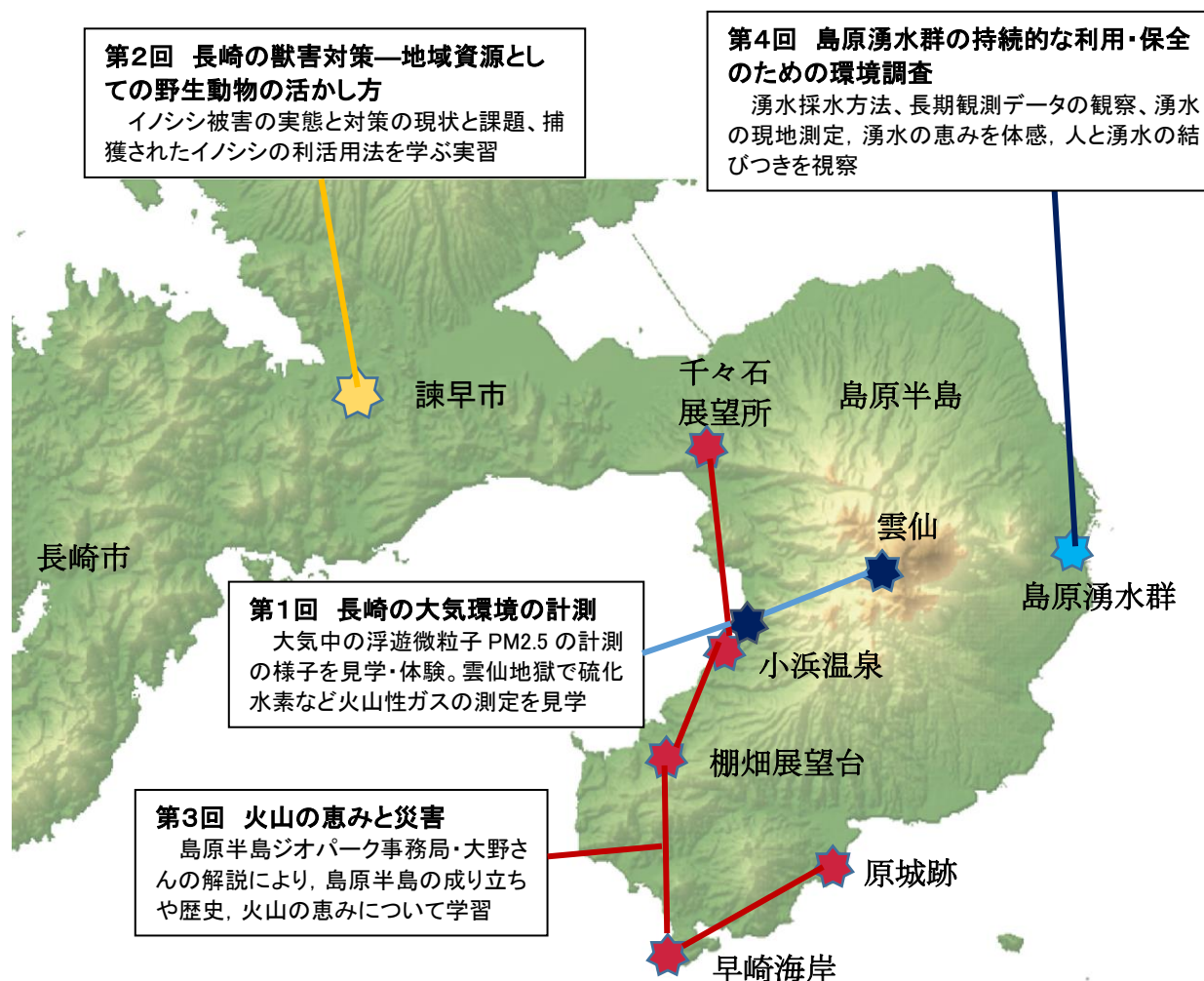
2021年6月1日発行 第2号

AERRCでは2019年度より、「レジリエントな地域社会創生リーダー育成プログラム」を実施しています（プログラムの目的・構成は、環境科学部学生便覧12ページを参照してください）。本号では2020年度に行ったプログラムの内容を特集で紹介いたします。

◆環境フィールドスクール

コロナ禍のため、当初予定の7回のうち3回が中止となりましたが、4回を無事実施することができました。

回	テーマ	担当教員	実施日	参加学生数
1	長崎の 대기環境の計測	河本・中山	10月17日(土)	8
2	長崎の獣害対策—地域資源としての野生動物の活かし方	関	10月24日(土)	13
3	火山の恵みと災害	馬越	11月7日(土)	15
4	島原湧水群の持続的な利用・保全のための環境調査	利部	11月28日(土)	21



※島原半島 自然環境に恵まれ、日本初の国立公園、世界ジオパークにも認定された地域で、雲仙火山の地熱や森林等の再生可能エネルギー資源も豊富です。一方で、使わずに捨てられている温泉水の利用方法、農畜産業由来の地下水汚染等の環境問題、多様な自然災害への対策など取り組むべき課題が数多く認識されています。

第1回 長崎の大气環境の計測



写真1：小浜ターミナル屋上でのPM_{2.5}計測を見学



写真2：ロープウェイ山頂駅でのPM_{2.5}計測を見学



写真3：PM_{2.5}センサーで実際にPM_{2.5}濃度を計測



写真4：雲仙地獄でのH₂S等の計測を見学

第2回 長崎の獣害対策



写真1：獣害問題の現状や対策方法を学ぶ



写真2：イノシシの止め刺しの様子を見学



写真3：イノシシの解体体験（猪解体処理センター）



写真4：各自でイノシシの調理に挑戦した（学生のレポートから抜粋）

第4回 島原湧水群の持続的な利用・保全のための環境調査



写真1：採水作業の実体験



写真2：溶存酸素濃度の測定を見学



写真3：浜の川湧水でかんざらし

写真4：武家屋敷で集合写真

第3回 火山の恵みと災害



写真1：早崎海岸で430万年前の噴火による島原半島誕生の場所を見学



写真2：原城跡で大野さんが出演したプラタモリを再現
9万年前の阿蘇4火砕流堆積物、原城の石垣を観察



写真3：小浜温泉で温泉の恵みを、このあと足湯で体感



◆環境科学特別講義 C

この講義では、地域の活性化やまちづくりに様々な立場で活躍中の学部 OB・OG のお話をうかがいました。全 6 回の予定でしたが、コロナ禍のため、第 5 回はオンライン、第 6 回は残念ながら中止となりました。

1	10月21日	佐々木 裕	(一社)小浜温泉エネルギー事務局長、本学客員研究員	H18 度卒
2	10月28日	友永さや香	長崎市秘書広報部秘書課	H25 度卒
3	11月18日	鶴田 りえ	長崎県環境部自然環境課	H24 度卒
4	11月25日	岩本 諭	斜面地・空き家活用団体つくる 代表	H24 度卒
5	1月 6日	杉山 和一	(株)ペック取締役会長(リアルタイムオンライン)	元教員
6	中止	藤安 得博	(株)JR博多シティ営業部営業第三課課長	H13 度卒



佐々木さん：雲仙市小浜温泉で進められている、温泉エネルギーの活用を通じたレジリエントな地域創生についてお話をうかがいました。



友永さん：大学時代のお話のほか、長崎市役所でのお仕事や、現在進行中の長崎市の街づくり事例について、多くのお話を聞くことができました。



鶴田さん：学生時代、長崎県庁でのお仕事のほか、ご結婚・ご出産を経て考えたことなど、多くのお話を聞くことができました。



岩本さん：学生時代から携わられた長崎市内の空き家再生のプロジェクトや、地方自治体との協力など、まちづくりに関する実践事例を学ぶことができました。

杉山先生：長崎市が擁する斜面市街地の発達過程、現状、現在取り組むべき課題などについてお話を伺い、少子高齢化と人口減少が進む中で、どのような対応が必要となるのか、詳しく学ぶことができました。

◆AERRC 講演会

2020 年 12 月 17 日、ノンフィクションライター高橋真樹氏と、法政大学人間環境学部教授・西城戸誠氏のお二人をお迎えして、「コロナと気候変動に立ち向かう～長崎発『2050 年カーボンニュートラル』をどう実現するか?～」と題した講演会を催しました(コロナ禍対応で、Zoom ミーティング形式での開催)。当日は環境科学部学生ならびに水産・環境科学総合研究科の教職員 109 名が参加し、コロナから気候変動に至るまで、激しい変化とその危機にどう立ち向かったらいいのかについて、深く考える機会をいただきました。さらに生活に身近な事例から、創エネ・再エネへという具体的なエネルギーの「転換」のあり方と、実際に環境科学部の学生である自分たちに何ができるのか、という実践的な観点についても学びました。高橋氏・西城戸氏からの刺激的なご講演に続き、オンラインインタラクティブ形式の質疑応答を行うことで、学生からも活発な意見が飛び交い、予定された時間を過ぎててもなお、質問やコメントが尽きることのない有意義な時間をもつことができました。

水産・環境科学総合研究科 アジア環境レジリエンス研究センター講演会

12月17日(木)

時間：16:10～17:40

場所：オンライン開催 (ZOOM)

講師：高橋真樹先生 (ノンフィクションライター)

西城戸誠先生 (法政大学人間環境学部教授)

【オンラインフォーム】
<https://forms.gle/DQ7Q7YaPLFTFoA6A>
 主催/水産・環境科学総合研究科
 アジア環境レジリエンス研究センター(AERRC)



Zoom による AERRC 講演会のようす



「レジリエントな地域創生リーダー育成プログラム」2021 年度の予定を紹介しします。詳細は、説明会および掲示等でも行います。特定の回のみ参加も OK です（注：単位の取得には参加回数等の要件が定められています）。

◆環境フィールドスクール（1～4年生対象）

回	テーマ	担当教員	実施時期
1	奥雲仙・田代原のミヤマキリシマの保全活動	服部	5月(終了)
2	長崎の大気環境の計測 【人材育成プログラム(大気環境編)】	河本・中山	10月
3	長崎の獣害対策—地域資源としての野生動物の活かし方	関	10月
4	島原湧水群の持続的な利用・保全のための環境調査 【人材育成プログラム(地下水環境編)】	利部	10～11月
5	火山の恵みと災害 【人材育成プログラム(ツーリズム編)】	馬越	11～12月
6	地熱エネルギーの活用 【人材育成プログラム(エネルギー編)】	馬越・渡辺	11～12月
7	森林ボランティアを通じて長崎の森林の現状を知ろう	太田	未定
8	ながさき防災サポーターになろう！—長崎大水害を振り返り、これからの備える— 【人材育成プログラム(防災編)】	吉田	未定
★	発表会 【人材育成プログラムに所定の回数参加し、2単位取得を希望する者】	菊池	未定

※環境フィールドスクールの参加者募集は、担当教員が実施日の1～2か月前に掲示等により行います。それぞれ定員がありますので、参加は早めに申し込んでください。

◆環境科学特別講義 C（2，3年生対象）

昨年度に続き、学部 OB・OG を講師に招き、6月より順次実施する予定です。履修登録期間は過ぎていますが、追加での履修登録も可能です。履修科目登録単位数の上限を超えて履修できますので、ぜひこの機会に、経験豊かな先輩方のお話に耳を傾けてみて下さい。

◆AERRC 講演会

12月開催予定、内容未定（実施日・内容が決まり次第、掲示等でお知らせします）

※プログラム全般についてのお問い合わせは菊池教員まで。

長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科
 アジア環境レジリエンス研究センター（AERRC）
 連絡先 総合生産科学域事務部東地区事務課 総務第一係（環境科学系）
 e-mail: env_info@ml.nagasaki-u.ac.jp
 Tel 095-819-2713 (AERRC 担当・山下)
<https://www.aerrc.nagasaki-u.ac.jp>

